

平成22年度病害虫発生予報第12号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
麦類	うどんこ病	並	並
きゅうり	べと病 うどんこ病 褐斑病 菌核病 灰色かび病 ミナミキイロアザミウマ コナジラミ類	少 やや多 やや少 並 やや少 少 並	少 やや多 やや少 並 やや少 少 並
トマト	黄化葉巻病 灰色かび病 コナジラミ類	やや少 並 並	やや少 並 並
たまねぎ	白色疫病（防除情報第20号継続） べと病（防除情報第20号継続） ネギアザミウマ	やや多 やや多 やや少	やや多 やや多 やや少
いちご （本圃）	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類	やや少 並 並 並	やや少 並 並 並
かんきつ	そうか病  かいよう病  ミカンハダニ	並  少  やや少  (越冬病斑) 少 (越冬病斑)	並  少  やや少
果樹共通	クワゴマダラヒトリ	やや少	やや少
茶	カンザワハダニ	並	並

【発生予報】 本文の( )内は平年値

**麦類**

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 3月上旬の巡回調査（大麦9筆、裸麦6筆、小麦15筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

イ 3月3半旬の県予察圃場（無防除、諫早市）調査の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

# きゅうり

## 1. ベと病

### (1) 予報内容

発生程度 少

### (2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.6%(5.9%)、発生圃場率は16.7%(51.7%)であった。

## 2. うどんこ病

### (1) 予報内容

発生程度 やや多

### (2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は16.7%(8.3%)、発生圃場率は66.7%(65.4%)であった。

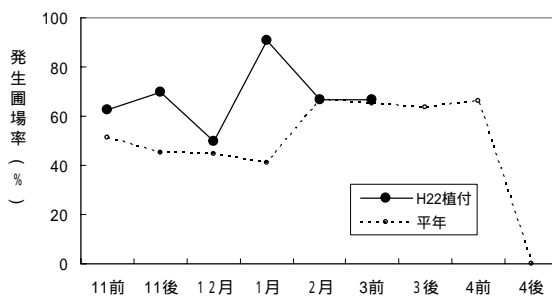


図 うどんこ病 発生圃場率の推移(巡回調査)

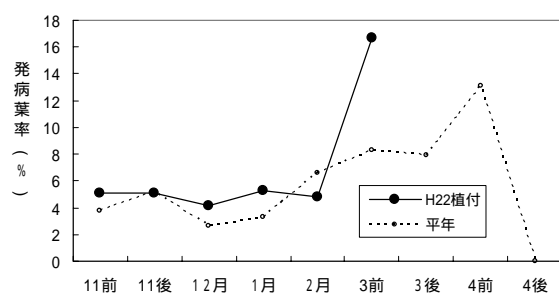


図 うどんこ病 発病葉率の推移(巡回調査)

### (3) 防除上注意すべき事項

ア 乾燥条件のほか、通風不良、窒素過多のとき発生が多いので、窒素の過用を避け、茎葉が過繁茂にならないように注意する。

イ 病勢が進行すると防除困難となるため、早期発見・早期防除に努める。

ウ 薬剤耐性菌を生じるおそれがあるので、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

## 3. 褐斑病

### (1) 予報内容

発生程度 やや少

### (2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は2.4%(5.7%)、発生圃場率は25.0%(55.2%)であった。

## 4. 菌核病

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率6.3%)。

## 5. 灰色かび病

### (1) 予報内容

発生程度 やや少

### (2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.2%、発生圃場率12.6%)。

## 6. ミナミキイロアザミウマ

### (1) 予報内容

発生程度 少

### (2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(寄生葉率1.9%、発生圃場率30.5%)。

### (3) 防除上注意すべき事項

ア キュウリ黄化えそ病ウイルスの伝染環を遮断するため、ウイルス保毒虫が野外に分散しないよう、発生初期に防除する。

イ 本虫は強い薬剤抵抗性を持つので、薬剤の選定にあたっては十分留意する。

ウ 栽培終了時に密閉陽熱処理等によって死滅させ、施設外への分散を防ぐ。

## 7. コナジラミ類

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は2.9%(3.3%)、発生圃場率は25.0%(32.4%)であった。

### (3) 防除上注意すべき事項

ア キュウリ退緑黄化病ウイルスの伝染環を遮断するため、ウイルス保毒虫が野外に分散しないよう、発生初期に防除する。

イ 本虫は強い薬剤抵抗性を持つので、薬剤の選定にあたっては十分留意する。

ウ 栽培終了時に密閉陽熱処理等によって死滅させ、施設外への分散を防ぐ。

## トマト

## 1. 黄化葉巻病

### (1) 予報内容

発生程度 やや少

### (2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は0.2%(過去6ヵ年0.8%)、発生圃場率は16.7%(同31.2%)であった。

## 2. 灰色かび病

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病果率は0.3%(0.4%)、発生圃場率は25.0%(30.2%)であった。

## 3. コナジラミ類

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は0.6%(寄生株率0.7%)、発生圃場率は8.3%(16.7%)であった。

## たまねぎ

### 1. 白色疫病

平成23年3月10日付病害虫発生予察防除情報第20号を継続。

### 2. ベと病

平成23年3月10日付病害虫発生予察防除情報第20号を継続。

### 3. ネギアザミウマ

#### (1) 予報内容

発生程度 やや少

#### (2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(15筆)の結果、寄生株率は11.5%(22.8%)、発生圃場率は53.3%(75.8%)であった。

## いちご

### 1. うどんこ病

#### (1) 予報内容

発生程度 やや少

#### (2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.2%、発生圃場率5.6%、発病果率0.0%)。

### 2. 灰色かび病

#### (1) 予察内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病果率は0.1%(0.2%)、発生圃場率は14.8%(16.7%)であった。

### 3. アブラムシ類

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は0.3%(0.7%)、発生圃場率は11.1%(8.4%)であった。

### 4. ハダニ類

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は2.0%(4.2%)、発生圃場率は25.9%(33.3%)であった。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 発生の増加に注意し、発生初期の防除を徹底する。

イ 葉裏に多く寄生するので、薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。

ウ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一薬剤は連用しない。

エ 天敵(チリカブリダニ等)を使用している圃場は、発生状況に応じて天敵に影響の少ない殺ダニ剤を活用する。天敵の利用方法については県病害虫防除基準等の使用マニュアルを参考にする。

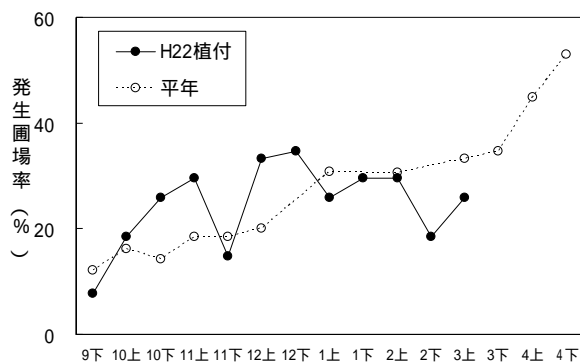


図 いちごハダニ類 発生圃場率の推移

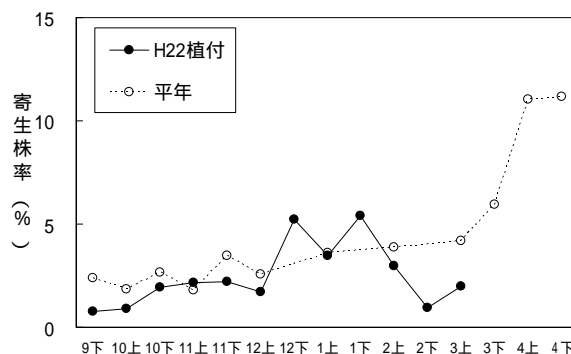


図 いちごハダニ類 寄生株率の推移

## かんきつ

### 1. そうか病

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発病葉率は0.0%(0.0%)、発生圃場率は10.3%(1.0%)であった。

### 2. かいよう病

#### (1) 予報内容

発生程度 少

#### (2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発病葉率は0.0%(0.5%)、発生圃場率は7.7%(25.6%)であった。

### 3. ミカンハダニ

#### (1) 予報内容

発生程度 やや少

#### (2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は1.3%(2.5%)、発生圃場率は35.9%(31.4%)であった。

## 果樹共通

### 1. クワゴマダラヒトリ

#### (1) 予報内容

発生程度 やや少

#### (2) 予報の根拠

平成22年9~10月に実施した産卵樹上(アカメガシワ、カラスザンショウ)における幼虫巢の発生調査の結果、県内11か所の平均発生程度は0.3であった(平成17~21年の平均:1.0)。

※ 発生程度 極多:5、多:4、中:3、少:2、極少:1、無:0

茶

1. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(16筆)の結果、寄生葉率は0.9%(1.3%)、発生圃場率は31.3%(31.3%)であった。

